令和４年度　第２回学校運営協議会（記録）

１　日　時　　令和４年 10 月 18 日（火）10:00～12:00

２　参加者　　学校運営姜会委員
・門池地区連合自治会長　様　・さんしんハートフル株式会社人材開発部主査　様
・日教弘静岡支部参事　様　・沼津市手をつなぐ育成会顧問　様
・愛鷹分校 PTA 会長　様　・校長、教頭、高等部主事、教務主任

３　校長挨拶
・前期学校評価をもとに来年度学校運営に向けた意見をいただきたい。この地域へ生徒がどんな貢献ができるかを合わせて考えたい。

４　授業参観
・１、２年　ワーク工房（緑…畑、布…縫製）
・３年　　職業（進路決定に向けて）
【参観の視点】
・愛鷹分校を地域にもっと知ってもらうために
・生徒の力を生かした作業学習の中での品質向上を目指すために

５　協議
・学校運営協議会の体制について確認

（副校長より）
・コロナ禍の影響がまだ続いている。交流が限定されている現状なので、新たな交流活動先を模索中。
・開校 10 年を迎え、より地域との結びつきを考えていきたい。

地域とのつながり

（委員より）
・コロナの状況は、この後も続くと考えられる。“コロナ禍だから”とやらないのではなく、安全安心をベースにしながらも、創意工夫してできることにチャレンジしていくべき。
・現在の作業学習は、教員や生徒の努力でつながりをもつ場所が増えてきている。企業側としては、学校を地域に知ってもらうために貢献できるものがあるとよい。
・学校は地域に知ってもらいたいと思っているが、地域としてはもっと学校に地域を知ってもらいたいと思っている。双方向で理解を深めていきたい。この地域に愛鷹分校があることは、地域が福祉について考えるチャンスをいただいたと思っている。共生社会を実現するためにはとても良い環境だと思う。
・お互いを知るため何をやっているかを情報交換できるとよい。行事計画を知ることで接点をもって関わることもできる。地区の広報誌に情報を載せる、地区センターの掲示板を使うなど今ある情報を使っての交流の方法はいろいろ考えられる。
・学校に行っている３年間はいろいろなつながりをもつことができるが、卒業後の長い生活の中で地域とのつながりが持てるように働きかけていけるとよい。

作業学習

（委員より）
・生徒自身が自分のモチベーションを上げるための取り組みを取り入れてみてはどうか。
・複学年での活動を見比べると、１年間での成長は大きいと感じる。基礎的なことを積み上げていくことは大切。

・自分たちが取り組んでいる作業学習が SDGｓのどの部分につながっているのかを確認することで、学習の意味をより深く理解することになるのではないか。
・生産物には、外部の評価を取り入れることが必要。時には手厳しく評価を受けることも自分たちのやっていることを振り返り改善するきっかけになる。
・作業学習に限らず、生徒自身がアウトプットする機会（上級生が下級生に教えるなど）を積極的に設定するとよい。

学校運営協議会

（委員より）
・学校のあるエリアとして防災学習にかかわっているが、学区の広いこの学校では、学習をしたことをいかに自分の地域へ戻せるかが大切になってくる。
・地域学校協働本部の役割を、保護者の代表が居住地区でできることや意見を伝えるようにすることで変えることができるのではないか。
・年３回の運営協議会で学校のことを評価することは難しい。一方向ではなく双方向で話を積み重ねていくことが大切。時間をかけて情報共有・意見交換を重ね、つながりを深めていけるとよい。

今後について

（委員より）
・運営協議会の協議は“熟議”と言われる。熟議をするために事前に発信する内容を提供してもらい、十分考えたうえで協議会を開催すると短時間でも効果的な話し合いができる。
・話し合いの方法は、一堂に会するだけでなく、Zoom などのオンラインを使用したり書面で意見したりするなどいろいろ考えられる。
・これから取り組めることを早めに意見交換できるようにしていく。